

第9回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧下さい。

2006年 2月 26日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

判りやすくダイレクトな表現で！

なぜなぜ分析を進めていく場合に難しいのは、ある事柄についてどのように文で表現するかということではないでしょうか。

私たちが普段使っている言葉や表現の中には、非常にあいまいなものが多くあります。

そのような言葉や表現をあまり気にせず、分析でもそのまま使ってしまうことが少なくありません。

特に、以下の言葉は、要注意です。

「不十分」

例えば、「設定不十分」といっても、設定できないのか、設定しなかったのか、設定しづらかったのか、がわかりません。

また、以下のような表現も要注意です。

「設定が不明確」

これでは、設定の手順が決まっているのか、設定値がないのか、設定値が間違っているのか、設定していないのか、がわかりません。

「張り方がわからない」

張るときの道具の使い方がわからないのか、張るときの順序がわからないのか、張るときのコツがわからないのか、がわかりません。

そして、以下のような一見よさそうな表現も注意してください。

「〇〇温度が高い」

時々高いのか(時間)、ところどころ高いのか(箇所・場所)、ある一定期間高くなったのか、ある一定箇所や場所が全体的に高いのか、その状態を的確につかんだ表現にしましょう。

このように、出来る限り、わかりやすくダイレクトな表現を心がけましょう。

以上